

---

## 『抗好中球細胞質抗体（ANCA）関連血管炎の治療法と転帰に関する調査』に

### 関するお知らせ

---

このたび、当院で診察を行った患者さんの診療録を用いた以下の研究を実施いたします。  
本研究は、【埼玉医科大学病院 IRB】の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。  
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

#### 研究の概要について

##### 1. 研究の対象となる方

2013年1月1日から2023年12月31日の期間に【埼玉医科大学病院リウマチ膠原病科】を受診し、抗好中球細胞質抗体（ANCA）関連血管炎（AAV：顕微鏡的多発血管炎、肉芽腫性多発血管炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症）の厚生労働省の診断基準で疑い・確診を満たし当科で治療を行った患者さんを対象としております。

##### 2. 研究の目的

ANCA 関連血管炎（AAV）の寛解導入療法と、それによる転帰を明らかにする。また、緩解維持療法の有無・薬剤の違いによって転帰に差があるか調査する。

##### 3. 研究期間

病院長の許可後～2026年12月31日

##### 4. 利用または提供の開始予定日

2025年11月1日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

#### 研究に用いる試料・情報について

##### 1. 試料・情報の内容

- ・ 利用する情報は、性、生年月、AAV 罹病期間、合併症、Birmingham Vasculitis Activity Score（全身症状、皮膚病変、粘膜/眼病変、耳鼻咽喉病変、胸部、心血管病変、腹部、腎病変、神経系病変）、入院期間、寛解導入療法のレジメ（副腎皮質ステロイド単独、シクロフォスファミド静注パルス療法併用、リツキシマブ併用）、維持療法薬剤（副腎皮質ステロイド投与量、免疫抑制薬の種類・用量）、治療開始後の合併症、有害事象、生存の有無、血算、生化学、尿検査、胸部 X 線、胸腹部 CT、心エコー、聴力検査、神経伝道速度検査などです。

※この研究で得られた患者さんの情報は、【埼玉医科大学病院】において、研究責任者である秋山雄次が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

## 2. 試料・情報の取得方法

AAV を当科で診療された患者さんの診療記録、検査データ、画像所見等から必要情報を得ます。

## 3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

- ・ リウマチ膠原病科 教授 秋山 雄次
- ・ リウマチ膠原病科 助教 酒井 左近
- ・ リウマチ膠原病科 非常勤医師 江本 恭平
- ・ リウマチ膠原病科 助教 岡元 啓太
- ・ リウマチ膠原病科 非常勤医師 松田 真弓
- ・ リウマチ膠原病科 助教 矢澤 宏晃
- ・ リウマチ膠原病科 非常勤医師 丸山 崇
- ・ リウマチ膠原病科 非常勤講師 吉田 佳弘
- ・ リウマチ膠原病科 非常勤講師 和田 琢
- ・ リウマチ膠原病科 講師 梶山 浩
- ・ リウマチ膠原病科 准教授 横田 和浩
- ・ リウマチ膠原病科 教授 荒木 靖人
- ・ リウマチ膠原病科 教授 舟久保 ゆう
- ・ リウマチ膠原病科 客員教授 三村 俊英

## 4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学病院病院長 篠塚 望

### お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学病院 リウマチ膠原病科 秋山 雄次

住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

電話：049-276-1462（土日祝日を除く 8：30～17：30）

○研究課題名：抗好中球細胞質抗体（ANCA）関連血管炎の治療法と転帰に関する調査

○研究責任者：埼玉医科大学病院 リウマチ膠原病科 秋山 雄次